

「尼崎市東部浄化センター 施設見学会」

説明：東部浄化センター 計画課 松森 松下 様 日本下水道事業団 山本 様

施設概要

尼崎市は、大阪平野の西部、兵庫県の東南部に位置し 東西 8.3km 南北 11.5km 総面積 50.72km² の都市で地形はおおむね平坦、北から南への約 1%の地表勾配の地形である。人口は約 45 万人で高潮被害なく、JR 尼崎、阪急塚口の再開発など有り、人口は上向き状況である。下水処理は昭和 28 年から事業着手され、平成 8 年度には普及率はほぼ 100%となっている。下水道管きょ普及状況は、布設済管きょ総延長が 69km、普及率（整備面積/認可面積）は 99.9%、整備面積 4054ha で合流式が約 90%である。又、処理区は公共下水道としての東部、北部処理区、流域下水道としての武庫川処理区などからなる。

中期ビジョン

尼崎市の中期ビジョンは、下水道施設の改築更新、浸水対策、地震対策、合流式下水道の改善高度処理の推進、省エネ推進、施設の有効利用など（平成 24 年から 33 年）で、ほぼ完了状況にある。今後の課題は、事業量の平滑化、改築事業量増加に対応する体制構築、ポンプ場や処理場の再構築を如何に効率的に行うかである。

場内見学

1 系水処理施設の 6 池すべてにおいて高度処理が行える様に改造工事中で、現在は 3 期工事の途中である（1 期工事で 2 池ずつ改造）。また、上記の 3 期工事においても土木工事はすでに完了しており、機械設備の据え付け、電気設備の調整中の状況にある。

高度処理は、2 段流入式硝化多段脱窒法で耐震補強工は、レベル 2 振動（阪神淡路大震災相当を想定した大地震）に対応する耐震補強「ベストグラウトバー工法」を採用している旨、説明をうけた。

高度処理水質については、りんは PAC 併用で除去し、放流水質は TN が 8mg/L、TP は 0.8mg/L を目標としている。また、既設水処理施設では疑似嫌気好気処理を試験的に実施しており、平成 29 年度の放流水質は TN が 5.2 mg/L、TP が 0.1 mg/L となっているが、変動があるため、安定的に放流水質を達成できるかどうかは、これから見ていくとのことである。

（文責： 佐野 光俊）

